

環境経営レポート

(対象期間：2019.4.1～2020.3.31)

2020年6月23日 発行

2020年7月31日 改版

東京都府中市官町1-40 KDX 府中ビル9階

株式会社クレスト

- 目次 -

1. 事業活動の概要
 - (1) 事業者名および代表者
 - (2) 所在地
 - (3) 環境管理責任者の連絡先
 - (4) 事業内容
 - (5) 事業所規模
 - (6) 対象範囲

 2. 環境方針

 3. 環境負荷の現状

 4. 環境目標とその実績
 - (1) 目標と活動内容
 - (2) 環境への負荷 削減実績
 - (3) 次年度以降の目標

【環境目標の担当者】

【主要な環境活動計画の内容】

 - i) 総エネルギー投入量削減
 - ii) エコマーク製品購入の促進
 - iii) 紙購入量削減

 5. 環境活動の取組結果の評価
 - (1) 総エネルギー投入量削減に関する取組結果
 - (2) エコマーク製品購入の促進に関する取組結果
 - (3) 紙購入量削減に関する取組結果

 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
 - (1) 違反
 - (2) 訴訟等
-

1. 事業活動の概要

(1) 事業者名および代表者

株式会社クレスト

代表取締役 大前 明

(2) 所在地

〒183-0023

東京都府中市宮町 1-40 KDX 府中ビル 9 階

(3) 環境管理責任者の連絡先

ソリューションビジネス営業部 斉藤 裕之

TEL 042-364-1718 FAX 042-330-8053

(4) 事業内容

情報システム関連のハードウェア・ソフトウェア設計・開発および評価検証、
および WEB 制作保守業務

(5) 事業所規模

床面積 : 140.62 m²

従業員数 : 41名 (2019年6月現在)

(6) 対象範囲

全社・全活動

2. 環境方針

環 境 方 針

当社は、地球環境保全が人類共通の重大な責務であることを認識し、経営の最重点課題の一つに位置付けします。

当社は、情報処理関連の設計業務を行っており、その業務において実施し得る全ての環境保全活動を以下に示し、推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源・省エネルギー・資源循環・グリーン購入・製品サービスの環境配慮・エコライフなどに配慮します。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境経営システムを継続的に改善します。
3. 環境関連法令等を順守します。
4. 環境目標を設定し、効果的な取り組みを行います。

2016年12月6日
株式会社クレスト
大前 明



3. 環境負荷の現状

環境負荷の自己チェック結果

		2017年度	2018年度	2019年度
エネルギー投入量	総量 (MJ/年)	166,661	160,915	178,387
物質投入量	総量 (Kg/年)	39	37	44
水資源投入量	総量 (m ³ /年)	—	—	—
二酸化炭素排出量	総量 (Kg-CO ₂ /年)	7,134	6,914	8,800
廃棄物等排出量	総量 (Kg/年)	166	135	182
排水量	総量 (m ³ /年)	—	—	—

2018年度を基準として削減を計画していたが、すべての項目で前年より数値が大きくなり、環境目標を達成することができなかった。

本社勤務者の増加に伴い、環境負荷が増えたことが主な要因として考えられる。なお、空欄項目については、ビル一括で処理しており、フロア単位での数値が把握出来ないため対象外とする。

4. 環境目標とその実績

(1) 目標と対策

①. 総エネルギー投入量削減 (電力の削減)

目標：2018年度基準3年後1.5%削減

対策：照明の常時消灯及び必要時点灯エリアの確認徹底

空調の適温化 (貼紙を実施し、対策実施)

冷房：28℃平均以上

暖房：22℃平均以下

最終退社時の電源 OFF 徹底 (チェックリストの利用により

100%電源 OFF を実施)

退社時、PC のディスプレイ電源の完全 OFF を徹底。(省電力は NG)

②. 物質投入量削減 (紙購入量の削減)

目標：2018年度基準3年後1.5%削減

対策：縮小/両面/集約印刷の徹底 (定期的な指示および貼紙により実施)

FAX 印刷量削減 (機密印刷を徹底し、不要な印刷を削減)

認定関係のペーパーレス化

③. 二酸化炭素排出量の削減

目標：2018年度基準3年後1.5%削減

対策：社用車運用手順書の遵守徹底

ガソリン節約運転の検証ビデオにて、省エネ運転に対する意識付けを実施。

④. 廃棄物排出量の削減およびリサイクルの促進

目標：2018年度基準3年後1.5%削減

対策：ゴミ分別の徹底（空き缶、ペットボトル）

シュレッダー、段ボール、新聞紙等の紙資源ゴミはリサイクルを徹底

⑤. 水資源投入量及び排水量の削減

目標：出来る限り水使用量、排水量を削減する。

対策：出来る限り水使用量を少なくする。

(2) 2019年度環境目標、実績、達成度

	2019年度目標 (2019/4～2020/3)		2019年度実績 (2019/4～2020/3)		達成度
	目標/ 1人	実績 (12人) ※	実績/ 1人		
エネルギー投入量 総量 (MJ/年)	17790.05	178,387.70	14,865.64	○	
物質投入量 総量 (Kg/年)	4.09	44	3.67	○	
水資源投入量 総量 (m ³ /年)	水道個別のメーターがない ため、目標設定対象外とす る	—		—	
二酸化炭素排出量 総量 (Kg-CO ₂ / 年)	764.41	8,800	733.33	○	
廃棄物等排出量 総量 (Kg/年)	14.93	182	15.17	×	
排水量 総量 (m ³ /年)	水道個別のメーターがない ため、目標設定対象外とす る	—		—	
グリーン(エコ)購 入を推進	エコマーク製品、グリーン マーク製品の購入を優先	製品購入の半数近くに グリーンマーク製品が 含まれていた		○	
化学物質使用量の削 減	化学物質は使用していない ため、目標設定対象外とす る	—		—	
サービスのグリーン 化の推進	ペーパーレス化およびオフィ ス機器の省エネの推進	節電対策は全社的に徹底されて いた。		○	

採用した二酸化炭素の排出係数は、2019年度から0.455(kg-CO₂/kWh)に変更。

廃棄物排出量が目標値を下回った以外は目標達成ができた。1人当たりの環境負荷は低いものの、本社勤務者の増加に伴って環境負荷が増えている傾向にある。

水資源投入量および排水量については、入居ビル管理会社が全フロア一括で処理しており、フロア単位で数値を把握することは不可能であるため、記載していない。

化学物質は使用していないため方策から除外。

※実績人数は本社常駐者の年間平均値となる。

(3) 次年度以降の目標（社員一人当たりの対前年比削減率）

		2019 年度	2020 年度	2021 年度
エネルギー投入量	総量 (MJ/年)	17,790.05	17,700.65	17,611.25
物質投入量	総量 (Kg/年)	4.09	4.07	4.05
水資源投入量	総量 (m ³ /年)	—	—	—
二酸化炭素排出量	総量 (Kg-CO ₂ /年)	764.41	760.57	756.72
廃棄物等排出量	総量 (Kg/年)	14.93	14.85	14.78
排水量	総量 (m ³ /年)	—	—	—

2018 年度を基準として 3 年後 1.5%削減を目標とする。

事務所常駐者人数が毎年変化しており、総量での目標を立てづらい為、一人当たりの数値で削減率を把握することとする。

また、水資源投入量および排水量については、入居ビル管理会社が全フロア一括で処理しており、フロア単位で数値を把握することは不可能であるため、削減の数値目標を設定から除外する。

次年度以降の環境目標及び環境活動計画

環境目標	責任者	目標達成のための方策・活動		
		2020 年度	2021 年度	2022 年度
グリーン（エコ）購入を推進	社長、 環境管理 責任者	受入検査を導入（強化）する。 エコマーク製品、グリーンマーク製品の購入を優先する 再生素材使用製品、廃棄物利用製品を優先的に購入する 省エネ型の製品の購入を優先する	同左	同左
化学物質使用量を削減する		化学物質は使用していないため方策から除外	同左	同左
サービスのグリーン化の推進	社長、 環境管理 責任者	認定関係のペーパーレス化、低消費電力 PC の積極的な導入、PC ディスプレイの未使用時 OFF の徹底、エアコンの温度管理の徹底による省エネの推進	同左	同左

【環境目標の担当者】

総務部門：総務部

技術部門：ソリューションビジネス営業部 齊藤 裕之

【主要な環境活動計画の内容】

今までの活動内容を継続し、更に以下の様な活動を実施する。

i) 総エネルギー投入量削減

- ①. 新規購入 PC は既製品（メーカー品）とし、省電力の物を導入する。
- ②. 照明の不要箇所を検討し、不要箇所は常時消灯又は必要時点灯を徹底する。
- ③. 蛍光灯を総チェックし省電力タイプへ移行する。また光量がさほど必要無い場合は蛍光灯をはずす。
- ④. 空調設定を適温化する。
- ⑤. 出退勤管理ソフトウェアを利用することで、最終退社時の安全確認用チェックリストを自動作成し、電源 OFF の確認忘れの無い様、チェックを徹底する。

i i) エコマーク製品購入の促進

- ①. 消耗品等の購入推奨品リストを作成する。
- ②. 新規購入時にはエコ商品を購入するよう徹底する。

i i i) 物質投入量（紙購入量）の削減

- ①. 縮小コピーの徹底
- ②. 両面コピーの徹底
- ③. 集約印刷の徹底
- ④. FAXはPDF印刷することでペーパーレス化し、必要な物のみ印刷
- ⑤. 機密印刷設定により、不必要な印字を削減。
- ⑥. 最終退場時チェックリスト同様、出退勤管理ソフトウェアを使用することで勤務表を自動生成し、タイムカードのペーパーレス化を実施。

i V) 廃棄物排出量の削減およびリサイクルの促進

- ①. シュレッダー、段ボール、新聞紙等の紙資源ゴミはリサイクルを徹底する。
(缶、ペットボトルは分別しているが、廃棄物回収業者の区分は不燃ごみ扱い)
- ②. ペットボトルのキャップについては、個別に回収しボランティア団体へ寄付する。

V) 二酸化炭素排出量の削減

- ①社用車運用手順書の遵守徹底
- ②エコ運転の徹底

5. 環境活動の取組結果の評価

(1) 総エネルギー投入量削減に関する取組結果

- ①. 新規購入 PC を既製品（メーカー品）とし、省電力の物とした。
- ②. 蛍光灯の交換（32w タイプ）に使用する蛍光管の購入を省電力タイプとした。
- ③. 光量を目視によりチェックし、光量がさほど必要ない場合は蛍光灯の間引を実施。
さらに常時消灯及び必要時点灯エリアを設定。
- ④. 空調設定を適温化した。
- ⑤. 最終退社時のチェックリストの運営を継続実施し、出退勤管理ソフトウェアを使用して、チェックし忘れを防止する対策を実施。

(2) エコマーク製品購入の促進に関する取組結果

- ①. エコ商品購入推奨品リストを作成済み。
- ②. エコ商品の購入を徹底するよう、会議にて徹底の依頼を実施。

(3) 紙購入量削減に関する取組結果

- ①. 縮小コピーの利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ②. 両面コピーの利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ③. 集約印刷の利用について、会議による徹底の依頼を実施。
- ④. F A X 受け取り時の排紙を停止し、選別印刷することを徹底した。
- ⑤. 機密印刷をメール及び会議による徹底の依頼を実施し、印字ミス等の不要な用紙の印刷を削除するよう徹底。
- ⑥. 上記最終退場時のチェックリストと共に出退勤管理ソフトウェアを作成し、打刻式タイムカードを廃止し、最終退場時チェックリストと共にペーパーレス化を実施。

(4) リサイクルの促進

- ①. 缶、ペットボトル及びシュレッダー等の資源ゴミの分別表を作成し、フロアへ貼付。
- ②. ペットボトルのキャップ用の専用回収ボックスをフロアへ設置。

(5) その他

- ①. ゴミ回収時の分別を徹底するため、ゴミの分別表を作成し、フロアへ貼付。

6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

環境法規制・条例等の一覧表

発行元	名称
法律	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）
法律	環境基本法
法律	資源の有効な利用の促進に関する法律
法律	循環型社会形成推進基本法
法律	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
法律	自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法
法律	使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）
法律	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
法律	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
東京都	東京都環境基本条例
府中市	府中市環境基本条例
日本電気株式会社	日本電気グリーン調達ガイドライン
キャノン株式会社	キャノングリーン調達基準書
東京都	都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）（エコドライブ、アイドリングストップ）

遵守評価の結果、環境関連法規制／その他要求事項への違反事項はありませんでした。

また、関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求は過去3年間ありませんでした。

7. 代表者の評価

環境負荷の数値については年々頭打ちになってきており、これ以上の成果を出すことが難しい。現在運用している環境改善活動を引き続き継続維持するように取り組むこと。

【改定履歴】

2020年6月23日

- ・新規作成

2020年7月31日

- ・代表者の評価記載